

# 令和5年度 自己評価報告書の概要

令和6年5月28日

東京呉竹医療専門学校

# 目次

教育目標と本年度の重点目標の評価 .....	3
基準 1 教育理念・目的・育成人材像 .....	4
基準 2 学校運営 .....	5
基準 3 教育活動 .....	6
基準 4 学修成果 .....	7
基準 5 学生支援 .....	8
基準 6 教育環境 .....	9
基準 7 学生の募集と受入れ .....	10
基準 8 財務 .....	11
基準 9 法令等の遵守 .....	12
基準 10 社会貢献・地域貢献 .....	13

# 教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和5年度重点目標	重点目標の達成状況	評価
<p>理念&gt; 国民の保健衛生と伝統医学の発展に寄与し、広く社会に貢献する有為な人材を育成する。</p> <p>&lt;教育目的&gt; 本校は、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、柔道整復師及び鍼灸マッサージの教員を養成するにあたり、それぞれに必要な高度の専門知識及び技術を授け、国民の保健衛生の増進に寄与するとともに、広く社会に貢献する有為な人材を育成する。</p> <p>&lt;育成人材像&gt; ●鍼灸マッサージ科・鍼灸科・柔道整復科 ①医療現場において患者の心と体を癒すことのできる医療人としての人格を持った人材。 ②医療を行うに当たり必要な知識・技術と臨床力を身に付けた人材。 ③臨床現場を見据えた実践的な教育により、医療を通じて社会に貢献できる人材。</p> <p>●鍼灸マッサージ教員養成科 ①社会のニーズに対応できる高い実践的臨床能力を持った人材。 ②鍼灸マッサージ養成施設の教員として相応しい、臨床力と指導力を有した人材。</p>	<p>(1) 高い学生満足度を得られる教育活動と学生支援</p> <p>(2) 社会に貢献する有為な治療家の育成と輩出</p> <p>(3) 高い外部評価を得られる学校運営と情報公開</p>	<p>(1) 教育活動と学生支援（教育環境の整備、健康管理） ①四谷本部本館が竣工し、2024年4月より運用開始。全館にWi-Fi環境を整備 ②電子黒板の導入、Webを活用した遠隔授業等、ICT活用による教育環境の整備 ③通常授業に加え、必要に応じて行う補習の充実、反復学習を促すための学習アプリの導入 ④新型コロナウイルス感染症が5類となり、対面授業を主としつつ、基礎科目や一部のカリキュラムについては遠隔授業を継続導入。オンライン授業による修得レベルの低減は課題。 ⑤学生の健康維持（健康診断、1年次胸部X線診断、B型肝炎ワクチン接種促進） ⑥教職員の健康維持（健康診断、胸部X線診断、胃カメラ診断(40歳以上)、B型肝炎検査)</p> <p>(2) 社会に貢献する有為な治療家の育成と輩出 ①アウトカム基盤型教育の実践（実践的知識と臨床力） ②入学前教育の実施、面談の強化（個別相談、スクールカウンセリング）、補習の充実 ③学生ニーズを捉えたアドバンス臨床講座やゼミの実施（スポーツトレーナー、女性領域） ・女性のためのウェルビーイング講座 ・スーパートレーナーコース ・ゼミの実施（お灸、吸い玉などの治療法、トレーナー技術ゼミ） ④就職率向上のためのキャリア支援強化：就職率90%以上 ・求人システムの活用促進と、卒後の受け皿としての企業連携（臨床実習施設、3層連携） ・対面形式での企業来校型現場説明会を2回実施。2回目は施術体験を導入</p> <p>(3) 高い外部評価を得られる学校運営と情報公開 ・職業実践専門課程、および高等教育修学支援制度の認定請をとおした適正な情報公開 ・高校へのPR活動の強化（指定校推薦校を約180校に拡大） ・学費奨学制度の充実（社会人奨学、推薦制度、特待生制度、分納制度、経済的支援相談） ・公的な学費支援制度の活用（高等教育修学支援、専門実践教育訓練給付） ・臨床実習施設である企業との良好な関係構築をとおしての人材発掘連携（3層連携活動） ・学生募集の全国展開（スーパートレーナーコースの活用） ・第三者評価を意識したコンプライアンス、学生の要望や社会ニーズを捉えた学校運営 ・評価項目に関連したエビデンスの整備 ・内部統制の適切な実践と外部監査法人による監査の実施 ・教職員の能力向上：学会参加、呉竹医学会、教員研修会の実施、外部講習会への参加 ・呉竹学園の人事評価制度の運用 ・教員養成科学生の厚待遇での就職先拡充</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>

## 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、教育理念に基づき、国民の保健衛生と伝統医学の発展に寄与し、広く社会に貢献する有為な人材を育成するため、知識、技術、態度といった基本的臨床能力の修得に加え、変化する社会環境・社会構造に対する問題解決力、多様な社会ニーズ、患者ニーズに対応できる臨床力を涵養するとともに、医療従事者に必要な倫理観、使命感、ホスピタリティー等の人間力を高め、患者貢献を実践できる、多職種連携を意識した人材育成を目指している。これらの教育理念、育成人材像、教育方針は教務規程に明記しており、学校案内パンフレットやホームページ等を利用し、広く周知を図っている。</p> <p>また、業界団体、学会、学校協会、および臨床実習の提携企業との定期的な情報交換によって業界の動向やニーズの把握に努め、それらを教育現場にフィードバックすることにより教育の質の向上を目指している。</p> <p>理念の達成に向けて、本校が設置する鍼灸マッサージ科、鍼灸科、柔道整復科、鍼灸マッサージ教員養成科はいずれも職業実践専門課程の認定を受けており、特色ある実践教育に取り組んでいる。近い将来において、教育の質の担保を図るために第三者評価の受審を計画しており、そのために必要な諸規程の整備及び内部統制の浸透に努めていくことを目標に掲げている。</p>	<p><b>【1-1】 理念・目的・育成人材像</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか</li> <li>3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか</li> <li>4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか</li> </ol> <p>○設置するすべての全学科において「職業実践専門課程」の認定（平成 26 年 3 月 31 日・文部科学省告示第 133 号）を受けている。</p>

## 基準 2 学校運営

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本学園の運営は、寄付行為に基づき設置法人の理事会において運営方針を決定している。姉妹校を含む各学校の運営は、それぞれの学校の教育目標を達成するために、事業計画に基づいて学校運営を行っている。</p> <p>理事長、法人事務局長、各校の校長および事務長で構成される校長会において、学校運営の重要事項を審議・決定するほか、月次の運営報告において姉妹校と情報共有しながら学園としての教育活動を展開している。本学園は、同様の医療専門課程を設置する3つの学校で構成され、姉妹校間の交流を通して教職員の専門性や人材資源を効果的に活用しやすい組織環境となっている。</p> <p>本校の運営においては、教育活動及び学校行事に係る業務を円滑且つ適切に遂行するために、各部門の責任者で構成される科長補佐会議を定期開催し、進捗管理を行うほか、規程に基づき学校運営に必要な委員会等を組織している。</p> <p>人事・給与については、就業規則及び給与規程に明示している。呉竹学園として人材を育成し、組織の活性化を図るため、法人本部、人材育成の専門企業、各校の事務長（管理責任者）が一体となって新しい人事評価制度を開発、教育し、令和4年度より、全ての教職員を対象とした人事評価制度を運用している。</p> <p>意志決定システムについては、文書決裁規程に基づいて原義書により決裁過程を明らかにしている。</p> <p>情報システム化への取り組みについては、学園内にVPN（ヴァーチャル・プライベート・ネットワーク）を構築し姉妹校間のネットワーク網を整備するとともに、学生募集システム、求人検索システム、会計システム等を導入している。これらのセキュリティ対策については、ウイルス対策ソフトの導入に加え、ルーターに専用のセキュリティゲートを設置し、学内外からの攻撃を監視し、情報漏洩及び防疫の対策を施している。令和3年にはサーバーの老朽化に対応し、管理コストを抑えつつ、教職員の使用履歴（ログ）を記録・管理可能な、新たなサーバー、及び管理システム（Sky Sea）の導入を行い、運用を進めている。</p>	<p><b>【2-2】 運営方針</b> 1 理念等に沿った運営方針を定めているか</p> <p><b>【2-3】 事業計画</b> 1 理念等を達成するための事業計画を定めているか</p> <p><b>【2-4】 運営組織</b> 1 設置法人の組織運営を適切に行っているか 2 学校運営のための組織を整備しているか</p> <p><b>【2-5】 人事・給与制度</b> 1 人事・給与に関する制度を整備しているか</p> <p><b>【2-6】 意思決定システム</b> 1 意思決定システムを整備しているか</p> <p><b>【2-7】 情報システム</b> 1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか</p> <p>○設置校 ・東京呉竹医療専門学校 ・横浜呉竹医療専門学校 ・大宮呉竹医療専門学校</p> <p>○附属施設（専門部署） ・東洋医学臨床研究所 ・呉竹学園教育センター ・呉竹学園臨床教育研究センター ・Kuretake 塾 ・教育戦略プロジェクト（PT） ・FD委員会 ・呉竹メディカルクリニック ・コンプライアンス委員会 ・研究倫理委員会 ・危機管理委員会 ・創立 100 周年記念プロジェクト</p>

## 基準 3 教育活動

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程の編成はカリキュラムポリシーに則り策定している。教育活動は、教育課程編成規則及び教育課程編成委員会実施要領に基づいて設置課程毎に教育課程編成委員会を設置し、教育課程の編成や授業科目等について委員の意見を取り入れながら、社会や業界のニーズを取り入れた教育を目指している。教育目標、教育方針及び育成人材像は「学修の手引き」に明記するとともに、授業計画や成績評価基準等についてはシラバスに明示している。</p> <p>ディプロマポリシーに基づき多職種連携を意識した医療従事者としての資質を涵養することを目標に掲げ、臨床実習及び臨地実習での体験をレポートさせる等、その経験が活かされる工夫をした。また、授業としての災害と鍼灸・開業支援、企業による来校型現場学習会、卒後に向けたキャリア講座を行った。</p> <p>成績評価は、学則及び教務規程に基づいて教務会の議を経て校長が決定する。合格基準に達しない者には補習、補講で学習サポートを行った。在校生、卒業生から学習法を学ぶ補習や、学習アプリの活用、企業によるマインドセット講義等により、成績向上及び退学者の抑制を行った。また、令和4年度の成績優秀者の中から、7名の特待生、3名の準特待生を選出し、所定の学費減免を行った。</p> <p>国家試験の指導では、平素の学業成績をもとに、補習、補講、個別面談等を実施し、学力の底上げを図るが、高い合格率の維持は容易ではないため、姉妹校間で情報交換し出題傾向や試験内容等の見直しを行った。国家試験に不合格となった場合は、国家試験対策に特化した既卒者向けの Kuretake 塾（有料）を開講し、合格に向けたフォローを行っている。</p> <p>教員資格については採用時に資格証明書の確認を行い、法令で定められた教員数を確保している。教員の資質向上の取り組みについては、学生による</p> <p>授業評価アンケートの結果等を踏まえ課題の把握に努めるとともに、組織的なFD活動、学内および学校協会の教員研修会、学会への参加、業団等が主催する研修等を通して教員の能力開発、及び指導力の向上を図っている。</p>	<p><b>【3-8】目標の設定</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか</li> <li>2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか</li> </ol> <p><b>【3-9】教育方法・評価等</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか</li> <li>2 教育課程について外部の意見を反映しているか</li> <li>3 キャリア教育を実施しているか</li> <li>4 授業評価を実施しているか</li> </ol> <p><b>【3-10】成績評価・単位認定等</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか</li> <li>2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか</li> </ol> <p><b>【3-11】資格・免許の取得の指導体制</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか</li> <li>2 資格・免許取得の指導体制はあるか</li> </ol> <p><b>【3-12】教員・教員組織</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 資格・要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>2 教員の資質向上への取組を行っているか</li> <li>3 教員の組織体制を整備しているか</li> </ol>

## 基準 4 学修成果

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職に関しては、就職希望者の就職率 100%を目標に、学生の就職活動を支援するため、進路調査、進路相談、求人情報の開示を行うと共に、企業来校型現場学習会、臨床実習指導施設の企業説明会、施術体験会等を開催している。ここ数年、鍼灸院や接骨院、関連分野は、学生にとっては売り手市場となっている。令和 5 年度の就職率は 91%（就職希望者の就職率）となったが、国家試験の勉強を優先して就職活動を後回しにする学生や、自分が目指す治療スタイルや勉強したい治療分野とのずれに悩んでいる学生も一定数いることから、卒業式以降も学生個々の事情に応じた就職のマッチングを支援している。</p> <p>国試合格率 100%を目標として、授業、補習、補講、Kuretake 塾のノウハウ活用等により、全国平均を上回る実績となっている。令和 5 年度、第 3 回国家試験の結果は、あん摩マッサージ指圧師が 96.5%（全国新卒 92.8%）、はり師が 90.9%（全国新卒 85.8%）、きゅう師が 92.0%（全国新卒 86.2%）、柔道整復師が 81.8%（全国 84.0%）となった。受験生減少による学生の学力低下、新型コロナの影響で、高合格率の達成は容易でないため、姉妹校 3 校で協力して国家試験対策や指導方法を改善している（3 校連絡会）。</p> <p>卒業生の社会的評価については、学会等での学術発表や学術雑誌への掲載、校友会組織である呉竹会総会後に行う「卒業生の集い」、求人企業や臨床実習指導先企業との情報交換、学校広報誌の取材等を通して卒業生の活躍状況の把握に努め、学校案内やホームページ、求人冊子 SHINRO 等で紹介して募集活動にも活用している。</p>	<p><b>【4-13】 就職率</b> 1 就職率の向上が図られているか</p> <p><b>【4-14】 資格・免許の取得率</b> 1 資格・免許取得率の向上が図られているか</p> <p><b>【4-15】 卒業生の社会的評価</b> 1 卒業生の社会的評価を把握しているか</p> <p>* 教員養成課程を持っている学校は本校を含めて 4 校しかない。 そのため、全国の養成校へ教員を輩出することを使命と考えている。 様々な教員になる事への魅力発信が功を奏し、本年度は卒業生 28 名中専任教員 7 名、非常勤教員 4 名が就職した。</p> <p>* 教員養成科の卒業要件として、「卒業論文発表および卒業論文を提出している者」と定められている。 令和 5 年 2 月に卒論発表会があり個人研究、グループ研究合わせて 15 演題の研究発表があった。</p>

## 基準 5 学生支援

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職支援は事務局と3年担任が連携し、進路調査、相談、求人情報の開示、企業説明会（企業来校型現場学習会、臨床実習先企業説明会）を通して就職マッチングを行い、令和5年度の企業説明会については2回（6月、10月）および施術体験会を対面形式で実施した。</p> <p>中途退学については、少しでも早い段階で意欲低下や退学兆候を察知するため、学生の異常な欠席状況があれば報告するとともに、期末試験の結果により補習や個別相談、保護者への連絡を行っている。退学率は5%以内を目標としているが、令和5年度の中退率は全学科で7%であった。中でも柔道整復科I部の退学率は令和4年度の8.6%から令和5年度は17.7%に増加した。1年次の退学者数は8名で、昨年より増加した。クラス内の会話の促進、在校生・卒業生など年の近い先輩による学び方補習や、企業の協力による学生向けのマインドセット講座を実施した。なお、学生相談は、各学年に担任・副担任をおき、複数で相談に応じられる体制としている。給付金や奨学金等の経済的支援、就職、ハラスメント等に関する相談は、学生支援室、及び事務局も窓口となっている。学習、生活等の幅広い悩みの窓口として担任による個別面談に加えて、令和4年度から心理カウンセラーを設置し、令和5年度も継続した。</p> <p>経済的側面の支援は、資格別学費減免、特待生制度の他、経済的困窮者向け奨学、専門実践教育訓練給付、高等教育修学支援制度等の活用により、経済的な支援を行った。</p> <p>健康管理では、法令に基づき、全学年を対象とした健康診断、1年生のみを対象とした胸部X線検診を実施した。新型コロナウイルス感染症は令和5年より5類となったが、感染状況は続いていたため、引き続きマスク着用、手指消毒、実技室の衛生管理を継続した。</p> <p>課外活動としては、お灸同好会、中医治療法、良導絡治療法、精神疾患と認知症、小児鍼法、鋲鍼法、トレーナーゼミ、及び特別講義を実施した。さらに有料講座として、スーパートレーナーコース、女性のためのウェルビーイング講座（美容、不妊治療等）、いずれも対面形式で実施した。</p> <p>保護者との連携では、成績不良や欠席の多い学生に対しては保護者と連絡をとり、必要に応じて三者面談を実施している。新型コロナの影響もあり、令和5年度は保護者会を対面、オンラインで実施した。</p> <p>卒業生の卒後研鑽を目的とした卒後臨床講習会を令和5年度は再開し3回実施した。5月の呉竹会主催の総会・講演会是对面形式で実施した。10月の呉竹医学会も対面形式で横浜校において実施した。</p> <p>社会人の仕事と学びの両立を目的とした夜間特修コースを設けているが、柔道整復科夜間特修コースは、学生減少に歯止めがかからず、令和4年度生より募集を停止し、令和5年度をもって廃科とした。四谷本館では、社会人のニーズを踏まえ、学生ラウンジや図書室の充実、女子トイレの増設を行った。地方の学生に対しては、食事を提供する提携学生寮や安価な賃貸物件を、学校提携価格で紹介している。</p>	<p><b>【5-16】 就職等進路</b></p> <p>1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか</p> <p><b>【5-17】 中途退学への対応</b></p> <p>1 退学率の低減が図られているか</p> <p><b>【5-18】 学生相談</b></p> <p>1 学生相談に関する体制を整備しているか</p> <p>2 留学生に対する相談体制を整備しているか</p> <p><b>【5-19】 学生生活</b></p> <p>1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか</p> <p>2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか</p> <p>3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか</p> <p>4 課外活動に対する支援体制を整備しているか</p> <p><b>【5-20】 保護者との連携</b></p> <p>1 保護者との連携体制を構築しているか</p> <p><b>【5-21】 卒業生・社会人</b></p> <p>1 卒業生への支援体制を整備しているか</p> <p>2 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか</p> <p>3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか</p>

## 基準 6 教育環境

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の施設・設備は関係法令の基準に適合し、且つ教育上の必要性に対応した施設になっている。古い校舎の保守については、法定点検及び定期点検の結果に基づいて計画的に改修および設備更新を行うとともに、昨今の授業の遠隔化、デジタル化に対応した通信機材と Wi-Fi 環境の整備を進め、教室に電子ホワイトボードを備えた四谷本館が令和 6 年度 2 月に竣工し、4 月より運用を開始した。※5 号館（平成 31 年竣工）、1 号館（令和 2 年竣工）。</p> <p>臨床実習は、学内の付属施術所での臨床実習に加え、学外においても対象施設を毎年増やし、臨地実習も拡充させている（約 180 カ所）。</p> <p>海外研修については、1985 年より希望者を対象に上海中医薬大学への短期留学（鍼灸、薬膳、解剖実習の各コース）を実施してきたが、令和 5 年度は中止し、上海中医薬大学の鉅桂祥教授（他 2 名）の訪日に合わせて特別講義を行い、38 名が参加して盛況であった。</p> <p>防災については、消防計画及び危機管理マニュアルに基づき、災害時の体制を組織し、防災訓練を毎年実施している。また災害備蓄品は学生には個人用を保管させ、教職員用には別に備蓄している。令和 5 年度は三密を避けて放送訓練（学生および教員）を実施した。</p> <p>学内の安全管理体制では、学校安全計画に基づいて毎学期、校舎施設、設備、教育備品等の点検を実施し、不具合等の確認及び修繕を行っている。</p> <p>学生の保険としては、学生・生徒 24 時間共済保険に加入しており、校内でのケガ、事故に加え、学外の臨地実習中の事故、損害賠償、学生の日常生活におけるケガや感染症に対する補償も含めて充実させている。</p>	<p><b>【6-22】施設・設備等</b></p> <p>1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか</p> <p><b>【6-23】学外実習・インターンシップ等</b></p> <p>1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか</p> <p><b>【6-24】防災・安全管理</b></p> <p>1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか</p> <p>2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか</p>

## 基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>高等学校および生徒に対する学生募集活動では、学校案内や募集要項等の郵送に加え、進路ガイダンスや高校訪問の際に、進路指導や担任の先生に在校生状況や入試に関する最新情報を提供している。入試の時期や方法については、東京都専修学校各種学校協会の入試倫理規程を遵守して適切に実施している。</p> <p>学生募集情報管理システム（Info Cloud）を活用し、ターゲット高校の情報、資料請求者、来校者、受験者等に関する情報の一元化を進め、募集活動の効率化を図っている。少しでも優秀な学生を獲得するため指定校推薦の対象校を約 180 校（前年度 120 校）に増やした。</p> <p>高校生および社会人に対する学生募集活動において、ホームページ、SNS、YouTube、インスタグラム、進学サイト、DM 等の様々な広報ツールを活用し、学校情報を分かりやすくタイムリーに発信する工夫をしている。学校説明会では、学校の魅力を十分に伝えられているか、事務と教員で話し合い、イベントに合わせて内容を見直している。平日の個別見学会、ミニ説明会にも力を入れている。</p> <p>元 FC バルセロナトレーナーで卒業生の山田晃広氏に、全国の高校アスリートに対し、セミナー、SNS 等で、本校のトレーナー教育を PR して貰い、全国からの学生獲得（9 名）に繋がった。また、全国の遠隔地からの受験を容易にするため、文科省の指針を踏まえ、Web 出願に加えてオンライン入試を実施した。</p> <p>入学選考においては、入試委員会規程において選考基準を定めており、入試の判定については入試委員会の議を経て校長がこれを決定し、その結果を議事録に保存している。入試に関するデータ及び募集状況については、校長会にて月次報告し、募集施策や入試方法の見直しを図っている。</p> <p>令和 5 年度も入学者特待生奨学制度を実施し、選抜試験（現代文）で 7 名を選考し、3 段階の成績に応じて令和 6 年度後期授業料において奨学する。</p> <p>学納金は、同分野の学校の学費水準をベンチマークし、経費の妥当性に基づいて令和 2 年度から導入した学費体系と、募集力向上のため令和 3 年度から導入した奨学制度（推薦、特待生、資格保有者減免等）を適用している。なお、入学辞退者への授業料等返戻は、学則及び募集要項に明記している。</p>	<p><b>【7-25】 学生募集活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか</li> <li>2 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか</li> </ol> <p><b>【7-26】 入学選考</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか</li> <li>2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか</li> </ol> <p><b>【7-27】 学納金</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか</li> <li>2 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか</li> </ol>

## 基準 8 財務

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校の財務基盤は、少額のリース契約を除いて借入金は無く、繰越利益金はプラスで推移している。人件費等の固定費比率についても適正な範囲に収まっているため、中長期的に安定した財務基盤となっている。一方で、養成施設の過剰供給に加え、少子化や修学支援制度による大学等への進学希望者の増加、柔道整復科への社会人の入学志願者の大幅な減少により、学納金収入が減少傾向にあり、持続的な定員確保が課題である。今後、人材供給不足を業界の課題として共有し、教育機関である学校と、あはき・柔整の企業および業界団体とが連携し、業界あげての人材発掘活動が必須である。</p> <p>予算・収支計画については、教育目標や事業計画に基づいて理事会で決定し、執行管理についてはクラウド会計システムにより法人事務局にて管理している。</p> <p>監査は法令に基づき每期実施し、理事会において監査報告を行うとともに、毎年度、監査法人によるチェックと指導を受けている。</p> <p>財務情報の公開については、情報公開規程に基づき、財務諸表をホームページに公開している。</p>	<p><b>【8-28】財務基盤</b></p> <p>1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか</p> <p>2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか</p> <p><b>【8-29】予算・収支計画</b></p> <p>1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか</p> <p>2 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか</p> <p><b>【8-30】監査</b></p> <p>1 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか</p> <p><b>【8-31】財務情報の公開</b></p> <p>1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか</p>

## 基準 9 法令等の遵守

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、関係法令及び設置基準等に基づいて、監督官庁等への報告、申請、届出等を行うとともに、学校運営に必要な諸規程を整備し、適正な学校運営に努めている。令和元年に全教職員を対象としてハラスメント教育を実施した。今後、ハラスメント防止規定に従い、相談窓口設置を検討する。コンプライアンスの遵守では、自己点検の実施と合わせて、法人において弁護士、監査法人と契約を締結して必要な対応を取っている。</p> <p>個人情報保護に関しては、個人情報保護規程に基づき、情報漏洩防止の観点からデータの取り扱い等のルールを策定し、教職員に教育して徹底するとともに、ホームページにプライバシーポリシーを公開している。本校および姉妹校においてメールによる参加者情報の誤送信が発生したことを契機に、メール送信時の確認画面を全 PC に掲出している。また教職員を対象とした情報端末の使用教育において、インターネットへアクセス制限、個人 USB の取扱い制限等、個人情報管理の定着、漏洩の完全防止に努めている。</p> <p>学校評価における取り組みでは、平成 21 年から自己点検・自己評価を実施し、その結果をホームページに公表するとともに、平成 24 年から関連業団体の有識者、企業等の役職者等の学校関係者による学校評価を行い、その結果をホームページに公表している。</p> <p>教育情報の公開については、文部科学省の「専門学校における情報提供等の取組に関するガイドライン」に沿って、ホームページや学校案内パンフレット等で公表している。また、高等教育修学支援に関する機関要件の更新申請に伴い、シラバス、実務経験のある教員の授業科目、成績評価の方針、役員名簿、財務情報等、教育活動と学校運営に関する情報を公表している。</p>	<p><b>【9-32】 関係法令、設置基準等の遵守</b></p> <p>1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか</p> <p><b>【9-33】 個人情報保護</b></p> <p>1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか</p> <p><b>【9-34】 学校評価</b></p> <p>1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか</p> <p>2 自己評価結果を公表しているか</p> <p>3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか</p> <p>4 学校関係者評価結果を公表しているか</p> <p><b>【9-35】 教育情報の公開</b></p> <p>1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか</p>

## 基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（評価項目・特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の教育資源を活用した社会貢献では、教員が（公社）全日本鍼灸学会の編集委員・学術委員・教育研修委員として、また（公社）東洋療法学校協会、および（公社）全国柔道整復学校協会の各種委員としての活動を通して、あはき、柔道整復の学術・教育の発展に寄与している。地域貢献では、地域住民の方の健康の維持増進に資するため、本校の鍼灸科附属施術所では年間延べ1,000人以上の患者を受け入れている。令和5年は、鍼灸科附属施術所において、鍼灸マッサージ科3年生の臨床実習として、地域住民を対象としたチャリティーマッサージを開催した。伝統医学に触れ、附属施術所を知って戴くと共に、その収益は地域社会に寄付する予定である。また、継続的に実施している寄付として、日本赤十字社に対する寄付があり、昨年度は社長名で感謝状を戴いた。今後も、地域社会に対する貢献を意識していく。</p> <p>学校の施設は、関係協会や団体等から要請があった場合には、業団体などの講習会等の会場として校舎施設を開放している。</p> <p>国際交流では、学術交流及び医学知識・技術の研鑽を目的に上海中医薬大学短期留学を毎年度実施して来た。令和5年度の留学は実現しなかったが、上海中医薬大学の教授陣の来日に合わせ、特別講義を実施した。その一方で、令和4年度に行った3姉妹校合同のオンライン講義は実施しなかった。</p> <p>地域の信濃町子ども家庭支援センター主催のママと子の育児ケアにおいて、『お母様中心のケア（抱っこ疲れ・筋肉痛・美容）』～体調を整えるツボ～の講習をボランティア活動として行った。</p> <p>その他、東京マラソン2023へのケアブースへのボランティアや、神奈川県陸上競技大会の救護（臨床実習の一環）等に、学生と教員が参加した。</p>	<p><b>【10-36】社会貢献・地域貢献</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>2 国際交流に取り組んでいるか</li> </ol> <p><b>【10-37】ボランティア活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っている</li> </ol>